



三茶祭

2023 レポート



陸上自衛隊 音楽隊による特別演奏



車両展示



Face to Fes.
CBRNテロ対応共同実動訓練



入り口のエアーアーチで
お客さんをお出迎え!



模擬店

第7回となる三茶祭は「びたっと! みっ“ちゃ”く三茶祭」をテーマに開催しました。2023年度の三茶祭は本格的に対面で開催されたため、前年度の「出逢い」の意味を込めたテーマから発展して、キャンパスのある世田谷区や地域住民、商店街の方とのつながりを深める、「地域密着」の意味合いを込めました。

OPEN CAMPUS オープンキャンパス・進学相談会日程

第1回	6月16日(日)	オープンキャンパス・進学相談会
第2回	7月21日(日)	オープンキャンパス・進学相談会
第3回	8月25日(日)	進学相談会
第4回	10月20日(日)	進学相談会(三茶祭内企画)
第5回	2025年3月 予定	進学相談会

オープンキャンパス・進学相談会についてのお問い合わせは TEL:03-6453-1700
日程の変更、予約制となる場合があります。

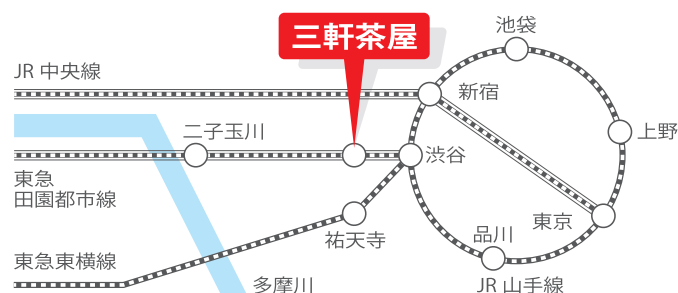


オープンキャンパス・進学相談会の情報は
こちらをご覧ください。

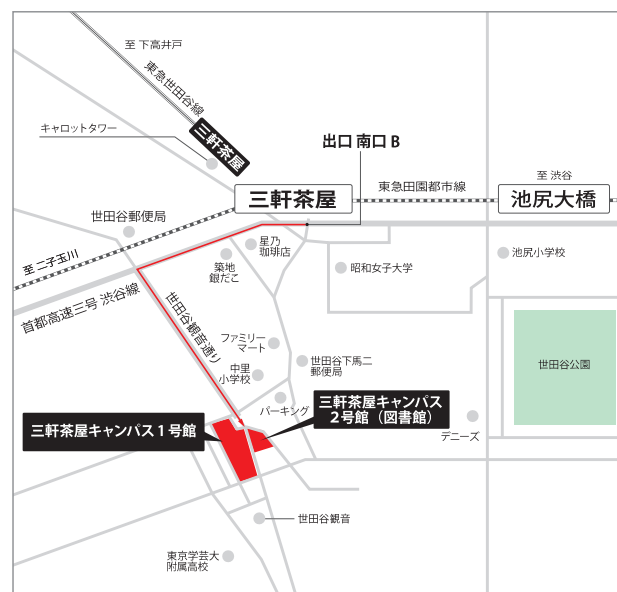
ACCESS アクセス

三軒茶屋キャンパスから新しい学びを発信

東急田園都市線の渋谷駅から急行で一駅、三軒茶屋駅から歩いて約10分。
都心型のキャンパスから、日本の未来に貢献する学びを発信していきます。



- 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩10分
- 東急東横線「祐天寺」駅から、東急バスで三軒茶屋駅行(約10分)「日大前」下車徒歩1分



CONTACT 問い合わせ先

日本大学三軒茶屋キャンパス

〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34-1

TEL:03-6453-1600 Eメール:adm.rmss@nihon-u.ac.jp

https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/



危機管理学部
ホームページ



危機管理学部
X



三軒茶屋キャンパス
Instagram



危機管理学部
YouTube

危機管理学部

COLLEGE OF RISK MANAGEMENT
NIHON UNIVERSITY



 日本大学

GUIDE BOOK 2025

危機管理に必要な 知識と行動力を身につける

4つの領域を柱に、危機管理学の学びを広げる！

新カリキュラム施行 キーワードは「レジリエンス(復元力)」

2022年度から新カリキュラムを施行し、新たなキーワードとして「レジリエンス(復元力)」を学びの中核に置いています。雨風で倒れた草木が再び力強く立ち上がるように、災害やパンデミックにも負けない、そして折れないタフでしなやかな社会を創造しようというコンセプトです。リスク・ファイナンス、クリミナル・ジャスティス、データ・サイエンスなど新たな科目も増設し、アクティブ・ラーニングの要素を強化した学生主体の授業を展開しています。

学位を「学士(危機管理学)」に変更

日本法律学校をルーツとする日本大学の法学教育をベースに危機管理学部はスタートしました。発足から7年、危機管理学部は時代や社会環境の劇的な変化と危機管理パーソンへの高まるニーズに対応すべく、2022年度の入学生から、学位(学位に付記する名称)を「学士(法学)」から「学士(危機管理学)」に変更しました。法学を中心とする社会科学に基盤を置く学びを維持しながら、新たな「学士(危機管理学)」にふさわしい先進的な学びを追及していきます。



災害マネジメント 領域

災害を未然に防ぎ対処する
災害マネジメント力向上を目指して

地震や津波などの自然災害、原発事故や運輸事故などの大規模事故の場面における避難、救急、救出活動、復旧復興などを幅広く修得する。



パブリックセキュリティ 領域

犯罪や事故による被害が最小化された
より安全で安心な社会の構築を目指して

特殊詐欺、ストーカー、テロリズムなどの犯罪や各種の事故から個人と社会の安全・安心を確保するための制度と組織、今後の課題について学ぶ。



グローバルセキュリティ 領域

変動する国際情勢を注視しながら
日本と世界の平和・安定を目指して

戦争や紛争、国際テロリズムなどの政治的・社会的な危機から、地球温暖化や難民、人権問題まで国際的な取り組みが求められる諸課題を学ぶ。



情報セキュリティ 領域

進化する情報技術と共存と
情報システム活用の最適化を目指して

インターネット環境下における情報管理や情報流出の防止と対策、ネット社会(多メディア時代)における情報リテラシーについて考察する。

教員一覧は
こちら



学びの特徴



▲教育方針の詳細は
こちらをご覧ください



学びのステップ

それぞれの進路に向けて、どのようにステップアップしていくのか？
危機管理学部で過ごす4年間で、学びの視点からご紹介します。

1 年次

1年次は、法学や語学、情報リテラシーなどの総合教育科目を中心に、専門科目の基礎となる幅広い知識を学修します。「自主創造の基礎」と「アカデミック・スキルズ」では、自発的な学修のために必要な知識や態度、技能(レポートの書き方やプレゼンテーションなど)を修得します。1年間の学びを通して、「領域」と「キャリア」という将来の方向性を見極めていきます。

2 年次

2年次は、専門科目の履修が本格的に始まります。「災害・パブリック・グローバル・情報」の4領域から選択した「主専攻」と「副専攻」を中心に学びを進めることになります。数々の専門展開科目では、従来の大学では受講できないような専門的かつ実践的な学びが待っています。前学期には「基礎ゼミ」が開設され調査や研究、プレゼンテーションの基礎を学び、後学期には自分の関心テーマに合わせた研究室を選択し、「ゼミナール」が始まります。

3 年次

3年次は、専門的な学びを深める1年です。主専攻と副専攻に加え、他領域の専門展開科目の大半が履修できるようになり、「復旧・復興論」「テロリズム論」「防衛政策」「企業広報論」など高度な学修に取り組みます。学生生活のリズムは「ゼミナール」が中心となり、フィールドワークや共同研究に取り組みます。また、卒業後の進路に向けての活動も本格化し、各種キャリア支援やインターンシップにも多くの学生が参加するようになります。



4 年次

4年次は、自分が選択した領域とキャリアで培った専門性と社会性を発揮し、自分が目指す道に妥協することなく進路を確定していきます。そして4年間の学びの集大成として、「ゼミナール」では卒業論文に取り組みます。また、先輩として3年生に研究や進路についてアドバイスをしたり、卒論の成果を研究会等で発表したりと、学年や大学の垣根を越えた交流も盛んです。危機管理学部での学びを最後まで楽しんでください。

社会の様々な場面で
活きる、危機管理能力を
身につけた人材へ

Message

学部長メッセージ

平和な世界、幸せな社会をデザインするための リベラルな危機管理パーソンを育てる

世界ではロシア軍がウクライナに全面侵攻して2年以上が経過し、中東ではパレスチナでイスラエル軍とハマスの戦闘が激化し、多くの犠牲者が発生しています。日本国内でも令和6年の元旦に、能登半島地震が発生し石川県を中心に北陸地方で大きな被害が発生しました。被災者の皆さんは現在も生活の再建のために厳しい状況に直面しています。国内外で発生するこうしたハザード系のリスクだけでなく、昨年は日本の政界で、政治資金をめぐる巨大スキャンダルが発生し、企業でも不祥事が相次ぎました。こうした問題は芸能事務所や大学スポーツにも及び、組織のコンプライアンスやガバナンスが問われた一年でもありました。

かつての「危機管理学」は、地震や津波などの自然災害や、旅客機事故や原発事故などの大規模事故、テロリズムやミサイル、戦争紛争、サイバー攻撃など情報セキュリティ、感染症パ

ンデミックなどのハザード系リスクを未然に防ぐリスクマネジメントや、発生後の被害を最小化するためのクライシスマネジメントを研究し、教育するものが主流でした。しかし、現在の危機管理学には、社会の組織や制度がより健全に営まれるようにガバナンスやコンプライアンスを確立し、そこで生活する人々の人権や自由が守られるようにするための、人道主義に基づいた民主主義的な価値を守るリベラルなアプローチが求められています。

世界のスタンダードであるSDGsやダイバーシティの価値を社会で共有しながら、平和な世界、幸せな社会をデザインすることが、現代の危機管理学の目的であり、これからの危機管理学部の目標です。

こうした危機管理学のリベラル・アプローチを、一緒に研究し、学びましょう。こうした新しい危機管理学をともに学ぶ仲間を、皆さんをキャンパスで待っています。

学部長・教授

福田 充 FUKUDA Mitsuru

Profile●1969年、兵庫県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士(政治学)。1995年の阪神淡路大震災以降、危機管理学の研究を始める。コロンビア大学戦争と平和研究所客員研究員や内閣官房等の危機管理・国民保護に関する委員を歴任。



学祖・山田顕義の理念を受け継ぐ 危機管理学部

日本大学の前身・日本法律学校を創設した学祖・山田顕義は、1844(弘化元)年に現在の山口県萩市に生まれ、14歳で吉田松陰の松下村塾に入門。後に岩倉使節団の一員となり欧米諸国の先進的な文化を視察し、軍備拡充よりも法律整備や教育の普及が急務であることを確信。日本を法治国家とすべく近代法の制度設計に邁進し、司法大臣として、明治法典を編纂。我が国「近代法の父」と呼ばれています。学祖は、欧米諸国の法律を学ぶことが主流だった当時の法学教育に疑問を抱き、1889(明治22)年に日本法律学校を創立。明治維新後の日本が近代化の過程で直面した安全保障や危機管理のあり方を法学的な観点から模索し、国際社会で通用する国家建設に尽力しました。危機管理学は新しい学問領域ですが、日本大学の起源とも関わる、非常に重要な研究分野です。



学祖・山田顕義

災害マネジメント 領域

DISASTER
MANAGEMENT



災害を未然に防ぎ対処する 災害マネジメント力向上を目指して

災害マネジメント領域は、地震や津波、台風などの自然災害、あるいは原発事故など広く災害と呼ばれる現象を扱う領域です。特に焦点を当てるのは、災害と関連する法制度、災害に取り組む政府や地方自治体、企業などの各種主体、地域コミュニティ、個々人の心理や情報といった社会的諸要素です。この領域では、法学や政治学、社会学、工学、心理学などの学際的な観点から、災害と向き合うわれわれの社会のあり方、向き合い方に対する理解を深め、社会において具体的対策を考えるための力を養います。

主な科目

- ▶ 災害対策論
- ▶ 災害情報論
- ▶ 自然災害論
- ▶ 災害と法
- ▶ 大規模事故論
- ▶ 地域防災論
- ▶ 災害史
- ▶ 消防救急論
- ▶ 事故責任法制
- ▶ 原子力と安全
- ▶ 復旧・復興論
- ▶ 感染症対策論
- ▶ 事業継続論 (BCP・BCM)



教員紹介

准教授
山下 博之 YAMASHITA Hiroyuki

専門は公共政策学。主に防災政策を研究対象とする他、これまで国民保護、感染症対策、消防行政に関する研究に従事。現在関心のある研究テーマは、防災政策におけるローカル・ガバナンス、防災政策におけるDX、自治体及び民間企業におけるBCP等。本学部では1年生の「リスクマネジメント」の他、「災害対策論」、「消防救急論」、「事業継続論」等を担当。

Student's voice

災害マネジメント領域
4年生
小口 いよりさん



実体験を活かす 危機管理学部での学び

中学生時代に豪雨災害を経験したことや、東日本大震災の被災地に足を運んだことをきっかけに「地域防災力の向上に貢献したい」と考えるようになり、危機管理学部に入学しました。入学後は、災害とは何か、公的機関の災害対応など、日本の自然災害対策について総合的に学べる災害マネジメント領域を選びました。自分が被災した災害が授業で取り上げられることもあり、実体験と学識が繋がりが学びが深まっているように思います。現在は、ゼミナールで熱海市網代地区を対象とした、従業員の方々の津波対策をテーマに共同研究を行っています。フィールドワークやヒアリングでは、授業では見えてこない視点が多く、授業で得た知識を活かす実践的な学びになっています。将来は、建設・設備系の企業で様々な施設と人の安全に関わっていきたいです。



PUBLIC
SECURITY

パブリック セキュリティ領域



Student's voice

パブリックセキュリティ領域
4年生
開本 有羽さん



幼い頃からの夢と 目標を叶えるために

小学生の頃から人々の生活と安全を守る警察官になりたいという強い思いがあり、危機管理学部を選択しました。本領域では、窃盗や詐欺、ストーカーをはじめとする犯罪やテロリズムに関する捜査、政策について実務経験を積まれた先生方ならではの視点から専門的に学ぶことができます。そうした授業での学びをもとに、ゼミナールでは過去の犯罪事例を検証しリスクを読みとることで、被害防止や軽減につながる様々な対処方法の議論や討論を行っています。将来、社会的に弱い立場である女性や子どもを守りたいという思いから、児童虐待を卒業論文のテーマとして、児童相談所と警察の連携や刑事介入の判断基準といった観点での研究を行っています。この研究を活かし、困っている人たちの気持ちに寄り添い、安心して相談してもらえるような警察官になることが私の目標です。



犯罪や事故による被害が最小化された より安全で安心な社会の構築を目指して

パブリックセキュリティ領域では、交通事故、特殊詐欺、ストーカー等の身近な事件・事故から組織犯罪やテロに至るまでの様々な治安問題を扱います。これらへの対処は決して公安系職種の専売特許ではなく、現代社会に暮らす誰もが避けて通ることのできない課題です。関連する法律や制度論だけでなく、その運用実態や社会的コストといった点も踏まえて学ぶことにより、様々な事象に内在する治安リスクを読み取り、その展開を予測し、被害を防止・軽減するための現実的な方法を考える能力を養います。

主な科目

- ▶ 社会安全政策論
- ▶ 刑事司法手続Ⅰ・Ⅱ
- ▶ 犯罪心理学
- ▶ 犯罪と法Ⅱ
- ▶ 国民保護
- ▶ 警察行政
- ▶ 法医学
- ▶ インテリジェンスコミュニティ
- ▶ インフラセキュリティ
- ▶ 犯罪と捜査
- ▶ 少年法
- ▶ 被害者学
- ▶ 経済刑法
- ▶ テロリズム論

教員紹介

教授
古谷 洋一 FURUYA Youichi

警察庁入庁後、本庁で保安・生活安全・国際部門を担当するほか、内閣官房、内閣法制局、在韓国大使館で勤務。長崎・神奈川県警察本部長、中部管区警察局長等を経て2022年現職。「社会安全政策論」、「警察制度」等を担当。修士(刑事司法・NY州立大)。



グローバル セキュリティ領域

GLOBAL
SECURITY



変動する国際情勢を注視しながら 日本と世界の平和・安定を目指して

グローバルセキュリティ領域では国際秩序を維持する安全保障、国際法などの法制度、国際テロリズムなどの国境を越える脅威に焦点を当てます。また戦争・紛争や環境破壊、難民、人権侵害、貧困、感染症など対象範囲が広いため、世界的な視野を持って多様な危機管理に携わるための素地を養うことができます。常に日々変動する国際情勢の動向を注視しつつ、紛争や領土問題など今そこにある危機の事例などを通して、今後の日本と世界の平和・安定に向けた具体的な取り組みを考えていきます。

主な科目

- ▶ 国際政治学
- ▶ 安全保障論 1 (国際安全保障)
- ▶ 国際法
- ▶ 安全保障論 2 (国家安全保障)
- ▶ 防衛法制
- ▶ ストラテジー
- ▶ 外交史
- ▶ 観光リスクマネジメント
- ▶ 国際人権・人道法
- ▶ 国際関係論
- ▶ 防衛政策
- ▶ 平和構築論
- ▶ 国際化と国境管理



教員紹介

教授
小谷 賢 KOTANI Ken

専門分野は国際政治学、安全保障。現在の研究テーマは、インテリジェンスや経済安全保障、サイバー・セキュリティ。本学部では「インテリジェンス」、「安全保障論」、「外交史」等の授業を担当。著書に『日本軍のインテリジェンス』、『日本インテリジェンス史』等。博士（人間・環境学）。防衛省防衛研究所主任研究官、防衛大学校講師等を歴任。2022年より参議院事務局客員調査員。

Student's voice

グローバルセキュリティ領域
4年生
榊原 菜々美さん



世界の「今」を 自ら知ろう

私がグローバルセキュリティ領域を選択してから一番身についたと感じていることは世界の「今」を自ら知ろうとする意識です。現在、世界はウクライナ戦争やガザ紛争など、激動の真っただ中にあります。そのような状況を受け、世界で「今」何が起きているのか、その問題に対して日本がそれにどう関わっているのか、報道やネットニュースを通じて意識的に見て、考えようとする習慣ができました。私の所属するゼミナールでは、主に国際紛争やインテリジェンス（情報収集や分析）について扱っており、事前に調べてきた世界情勢などに関する知識を、毎回、ゼミ生同士で意見を交わし合い、お互いに考察を深めています。そしてそこから雑多な知識が具体的に自分のものになっていくことを毎回実感しています。



INFORMATION
SECURITY



情報セキュリティ 領域

Student's voice

情報セキュリティ領域
4年生
湖口 柊平さん



高度情報社会の 「未来の安全」を考える

私が情報セキュリティ領域を選んだ理由は、今後の社会で情報セキュリティに精通している人材が求められると考えたからです。昨今、企業では情報セキュリティ管理を強化する動きがしばしば見られます。そのため、情報セキュリティ技術の知識を持つ人材へのニーズが高くなっています。この分野を学習すると、現在起こっている情報漏洩やサイバー攻撃等の事件でどのように情報技術が利用されているか、また被害を受けた側にはどのような脆弱性があったか、更に問題解決に向けて何をすべきだったのかということが具体的に理解できます。この達成感是他ではなかなか味わえないものです。更に他の領域と密接に関わる為、将来のキャリア形成に大いに役立つかと考えています。「未来の安全」を守るため情報の危機管理を是非一緒に学んでみませんか？



進化する情報技術と共存と 情報システム活用の最適化を目指して

情報セキュリティ領域では、情報システムを巡る様々なリスクを研究の対象とします。近年の情報技術の進化は目覚ましいものがあり、20世紀中盤以降のSFの世界が現実に近いつつあります。サイバー空間と現実の世界の境界は曖昧になり、人工知能は生活レベルの向上だけでなく、戦争兵器としての利用やプライバシーの侵害、企業間格差の拡大といった問題も生み出しています。私たちは基礎となる情報技術や適用事例を学び、派生する問題を取り上げ、情報システムのあり方を研究します。

主な科目

- ▶ 情報法
- ▶ 情報倫理
- ▶ 情報管理論
- ▶ ジャーナリズム論
- ▶ メディアコミュニケーション論
- ▶ プライバシーと法
- ▶ サイバーセキュリティ論
- ▶ 知財セキュリティ論
- ▶ デジタル・フォレンジック
- ▶ 企業広報論
- ▶ 情報技術と社会

教員紹介

教授
美濃輪 正行 MINOWA Masayuki

早稲田大学教育学部理学科卒業。日本IBMにて保険業界のフィールドサポート部門のエンジニアとしてPC管理システムの保守、保険アプリの開発、Webシステムの構築、大規模システムの移行等を担当。専門分野はインフラ、セキュリティ、開発プロジェクト管理。



法学系科目

LAW SUBJECT



危機管理の基本となる法学知識

主な科目

- ▶ 法学概論
- ▶ 犯罪と法I
- ▶ 企業組織と法
- ▶ 憲法と人権
- ▶ 民事法I・II・III
- ▶ 民事手続と法
- ▶ 立憲主義と統治
- ▶ 企業取引と法
- ▶ 経済法
- ▶ 行政法と行政過程I・II
- ▶ 企業統治と法
- ▶ 外国法

日常生活に在る危機を意識する

専門分野は民法です。前職が不動産取引業であったことから、民法と不動産取引法が交錯する問題に興味を持っています。契約や財産権、家族や相続のルールを定める民法は、すべての人に関係する法典であるため、「日常生活に潜む危機」という視点を大切にしています。



教授
永沼 淳子
NAGANUMA Junko

総合教育科目

GENERAL EDUCATION



危機管理パーソン養成のための基礎教養の充実

人文・社会・自然科学の教養を幅広く学び、情報リテラシーや文章表現などのスキルを修得します。英語科目では、日本人教員と外国人講師が連携し、習熟度別クラスで授業を行うことによりバランスのとれた学びを提供します。

主な科目

- | | | |
|------|------|----------------|
| 倫理学 | 政治学 | 救急処置法 |
| 宗教学 | 経済学 | 自主創造の基礎 |
| 文学 | 地理学 | アカデミック・スキルズ |
| 文章表現 | 心理学 | コンピュータ・情報リテラシー |
| 教育学 | 統計学 | 英語I～VIII |
| 社会学 | 地球科学 | 中国語I～IV |

Student's voice

災害マネジメント領域
4年生
宮田 紘希さん



身につけた法律知識で 市民生活に存在する危機を 予防・解決したい

法学は危機管理を学ぶ上で基礎となるものです。様々なリスクが混在する社会で、法を用いて紛争や問題を解決する能力は必要不可欠です。将来、行政職に就くことを目標にしているため、ゼミナールでは民法を学んでいます。民法ゼミを選んだ理由は、採用試験の苦手科目という単純なものでした。しかし、勉強を重ねる中で、日常生活に関する身近な法律が社会問題の解決策として用いられることに興味を持ちました。例えば、所有者不明土地問題解決に向けて改正法が順次施行されていますが、その内容は相続登記や共有など民法に関係するものです。さらに重要な行政サービスのひとつである後見制度に関するルールの基本は、民法の制限行為能力者の規定です。将来は身につけた法律知識を活かし、市民生活に存在する危機や紛争を予防・解決できるように努めたいです。

Student's voice

パブリックセキュリティ領域
2年
高梨 さくらさん



実践的英語力と 国際的視点を活かしたい

英語では、レベル毎にクラスが設置されており、自分の英語力にあった授業を受けることができます。ペアワークでの対話を通じて実践的なスピーキング力を身につけられました。また、Funny Laws in the Worldというテキストを使い、グループワークで長文の解説を作ることで読解力が向上しました。さらに、世界の不思議な法律が題材だったので、危機管理学部で学ぶ法学に活かせることが多くありました。その法律や考え方が、文化・経済・宗教などどう関わっているのか学ぶことができ、グローバル社会で重要な文化的・国際的視点を身につけられました。法学をベースとした危機管理の学修を進め、将来は英語力と国際的視点を活かせる企業で働きたいです。

留学・国際交流

STUDYING ABROAD

グローバルな危機管理学の修得に 最適な留学プログラム

留学は異文化を理解し、多様な価値観を受け入れ、高いコミュニケーション能力を身につける絶好の機会です。本学には、米国ウェスタンミシガン大学留学プログラム(約1年間)のほか、夏季休暇中に開催される日本大学主催の短期海外研修プログラムなど多種多様な留学の機会があります。

長期留学プログラム(8月～約1年間)

米国ウェスタンミシガン大学 派遣留学プログラム

ウェスタンミシガン大学は、ミシガン州カラマズーにある1903年創立の州立の総合大学です。カラマズーは、デトロイトやシカゴから車で2～3時間程度に位置し、治安も良好な街です。



日本大学主催 短期海外研修



SUMMER SCHOOL
United Kingdom
8月
ケンブリッジ大学
ペンブルック・カレッジ

三軒茶屋キャンパスの施設

FACILITIES

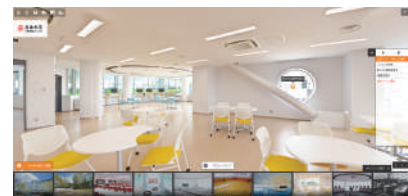
様々な防災機能を備えた三軒茶屋キャンパスはスポーツ科学部と共用です。

1号館は地下2階、地上8階建てで、教室、学生食堂、体育施設等を有します。2号館は5フロアにわたって図書館施設を有します。充実の設備で快適な学生生活を送ることができます。



詳細はこちら

360° VR TOUR バーチャルキャンパス



360°ぐるっと探検！
バーチャルキャンパスはこちら！
三軒茶屋キャンパスを360°で体験



学生生活サポート

STUDENT LIFE SUPPORT

修学支援制度・奨学金

日本大学は、「高等教育の修学支援新制度」の対象校に認定されており、その対象となった受験生は入学後に授業料が減免されます。また、奨学金も家計困窮者の支援を目的とした日本大学創立130周年記念奨学金(第2種)(30万円給付)など、学内外を含め充実しています。



詳細はこちら

保健室・学生支援室

保健室には看護師が常駐し、ケガの応急処置や健康相談、大学近隣の医療機関の案内や、日本大学病院への紹介状作成などを行っています。学生支援室では、教職員・保健室と連携し、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、修学や学生生活に不安を抱えている学生に対して、カウンセリング及び支援をしています。

学生寮・提携学生寮

日本大学では、複数の大学直営寮(男子寮・女子寮)を完備し、経済面・安全面の両面から、一人暮らしをする学生の学修を支援しています。入寮時の初期費用がほとんどかからず、基本的な家具・家電などの生活必需品が揃い、インターネット接続も無料です。提携学生寮では、寮長・寮母が常駐し、朝・夕の食事が付いています。全室個室で家具類は備え付け、共用設備も充実しており、快適な学生生活が送れるように様々な配慮がされています。



学生寮の
詳細はこちら



キャリアサポート

CAREER SUPPORT



詳細はこちら

三軒茶屋キャンパス 「キャリア支援プログラム」

行政キャリア、企業キャリアそれぞれの志望に応じたプログラムが構成されています。共通領域のプログラムのキャリアデザインの局面では、自己分析と業界・企業研究を、就職活動の実践力強化の局面ではエントリーシート作成指導、面接対策、適性試験対策、キャリアカウンセラー相談のプログラムが提供されます。これらの講座は、多様化する選考採用のあり方や学生の就職活動を始める時期の違いを考慮して設けられています。共通領域のプログラムでは全ての就活生に求められる技能を養成し、行政・企業キャリア向けプログラムでは、志望先に応じた深掘りを行います。

インターンシップ

「キャリア・デザインⅠ・Ⅱ」という正課科目を配置しています。これらの科目では、危機管理と関連のある企業や自治体についての業界研究・企業研究とインターンシップを通じて、危機管理に関わる仕事について知り、理解を深めていくことができます。

公務員講座

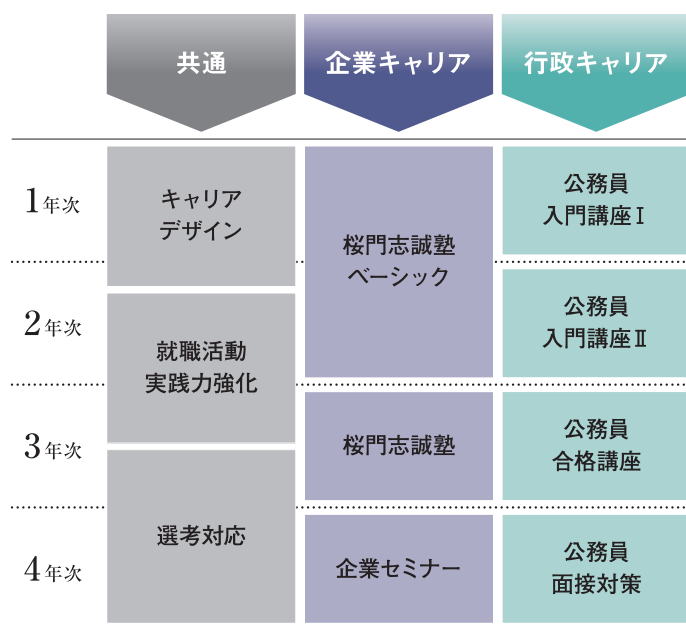
公務員を志望する学生に向けて、1年次から学べる公務員対策講座を独自に開講しています。公務員試験相談コーナーが開設され、公務員試験に関するあらゆる質問を専任の相談員や教員に相談したり、面接の指導を受けることができます。

桜門志誠塾

就職難関企業突破を目指す3年生向けに就活特訓塾「桜門志誠塾」を開講しています。就職活動に求められる実践的な社会人基礎力の強化を目指した課外授業の形式で20回以上のプログラム枠で構成されています。

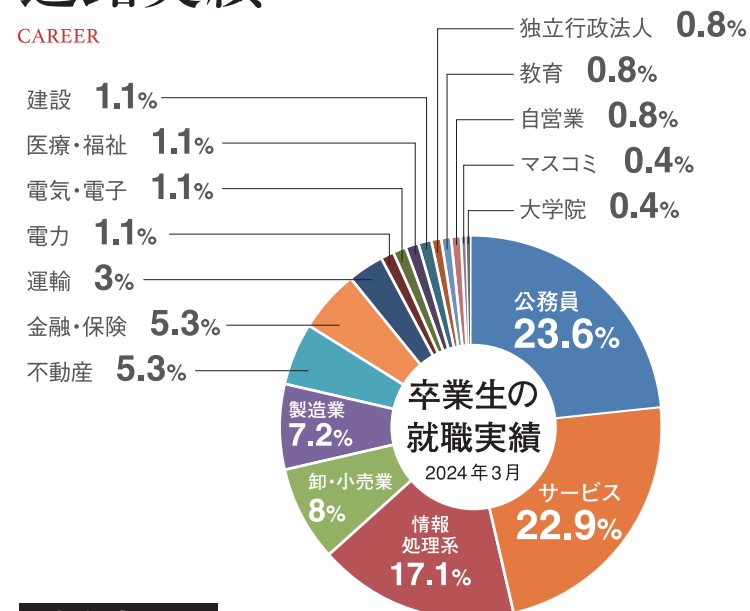
キャリアカウンセリング

就職・インターンシップ・公務員等の進路を検討する際にプロのカウンセラーに相談することで、多くの選択肢の中から最良の選択を導くための手助けをしてくれます。履歴書やエントリーシートの添削、面接の指導などあらゆるサポートを受けることができます。



進路実績

CAREER



大学院情報

大学院危機管理学研究科 修士課程 (令和5年4月開設、令和7年4月博士前期課程に改組予定) 博士後期課程 (令和7年4月開設予定)

大学院危機管理学研究科が開設され、社会人経験者、留学生を含む多様なバックグラウンド、研究テーマをもった学生が、日々研究に勤めています。本研究科は、災害、テロ、国際紛争など、複雑化した現代の様々な危機に、法学を中核とし、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した危機管理学の学識を適用して的確に対処し、翻ってレジリエントな社会の創造に貢献する高度専門職業人と指導的人材を養成します。具体的進路としては、博士後期課程を経ての大学教員、研究所研究員のほか、中央官庁、地方自治体の危機管理部門専門的職員、BCPなど危機管理の諸分野についての高いニーズを有する民間企業の総合職員等を想定しています。



詳細はこちら

さまざまなシーンで活躍する卒業生



interview
01

法務省
長野地方
検察庁

令和4年度卒
前島 史恵さん



interview
02

中日本
高速道路
株式会社
(NEXCO中日本)

令和4年度卒
下田 将太郎さん



interview
03

株式会社
THE STAR
PARTNER
(韓国)

令和3年度卒
岡田 真由さん



interview
04

警視庁

令和元年度卒
芝野 郁さん

国家社会の秩序維持のために

法務省の特別の機関にあたる検察庁で検察事務官として勤務しています。現在は総務課に所属し、職員の勤務時間・旅費関係業務を行っています。危機管理学部は2年次から4つの領域に分かれ、専門性の高いカリキュラムを通じ、自分の学びたい分野を集中的に研究できます。私が大学で得た知識・経験は、これから検察庁で捜査・公判実務に携わる際に、必要不可欠であると実感しています。

高速道路を安全に、スムーズに

私は事務系総合職として採用され、現在は東名や名神などの路線を管轄する名古屋支社にて、高速道路の保全・運営に関する部署に所属しています。暴風雨や大雪など激甚化する災害から高速道路を守り、24時間365日安全で安心・快適な状態でご利用いただくため、日々の危機管理は欠かせません。日本の社会や人々の生活を支える高速道路を通じて、危機管理学部の学びを社会に活かしたいと思います。

世界で通用する危機管理学

現在、韓国のエンターテインメント業界で仕事をしています。日本を出て働くことは、業務時だけでなく私生活においても日々戸惑いの連続ですが、二度とない機会だと思い日々を過ごしています。公演の開催やSNS運用をするにあたり、リスクマネジメントは常に必要不可欠です。危機管理学部で学んだことは、どの国の、どのような業界で働いても必要になるのではないかと日々実感しています。

日本の首都を守る

警視庁の警察署の交番で勤務をしています。東京は、日本の首都であると同時に世界からの玄関口でもあり、私達の仕事の内容也多岐にわたります。そして、そんな首都東京で警察官として仕事ができることにとても誇りと使命感を感じています。首都東京の治安と安全を守る警視庁での仕事は、まさに私が危機管理学部で学んだ知識の使いどころだと実感しています。私の他にも日本大学危機管理学部の多くの仲間が、警察官として第一線で活躍しています。皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



詳細はこちら

総合型選抜 リニューアルしました！

総合型選抜【探究型】	募集人員 15名
こんな人にオススメです ▶ 探究型の授業を受講して成果を出した方	

出願資格 (要件のいずれかに該当する者)

- ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。
- ②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達している者。

出願要件 (要件のすべてに該当する者)

- ①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
- ②高等学校又は中等教育学校等において実施される探究型授業を受講し、その成果物を提出できる者。

出願期間 令和6年9月2日(月)～9月11日(水)

選考方法

- **第一次選考** (書類審査) ※本人宛に結果を発送。

- ①志望理由書(学部指定用紙)
- ②探究型授業受講報告書(学部指定用紙)および成果物
- ③出身高等学校等調査書

●第二次選考

- ①総合問題試験(読解と論述を含む)
- ②口頭試問及び面接(探究型授業における成果物についてのプレゼンテーションを含む)

試験日

- **第一次選考** 令和6年 9月30日(月)

- **第二次選考** 令和6年10月26日(土)

総合型選抜【資格型】	募集人員 5名
こんな人にオススメです ▶ 資格取得を中心に頑張った方	

出願資格 (要件のいずれかに該当する者)

- ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。
- ②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達している者。

出願要件 (要件のすべてに該当する者)

- ①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
- ②本学部が指定する以下のいずれかの要件を満たす者。但し、各試験については出願期間初日から遡って2年以内に実施されたことを条件とする。
 - 実用英語技能検定準2級以上に合格していること
 - TOEIC® L&R Score 380点以上であること
 - TOEIC® Bridge L&R Score 60点以上であること
 - TEAP CBT 235点以上であること
 - TEAP(4技能) 135点以上であること
 - 情報処理推進機構 ITパスポート試験に合格していること
 - 情報処理推進機構 情報セキュリティマネジメント試験に合格していること
 - 情報処理推進機構 基本情報技術者試験に合格していること
 - 日本防災士機構 防災士資格取得試験に合格していること

出願期間 令和6年9月2日(月)～9月11日(水)

選考方法

- **第一次選考** (書類審査) ※本人宛に結果を発送。

- ①志望理由書(学部指定用紙)
- ②出身高等学校等調査書
- ③出願要件②を満たすことを証明する文書(スコアシート、成績表または合格証書等)のコピー

●第二次選考

- ①総合問題試験(読解と論述を含む)
- ②口頭試問及び面接(資格取得についてのプレゼンテーションを含む)

試験日

- **第一次選考** 令和6年 9月30日(月)

- **第二次選考** 令和6年10月26日(土)

総合型選抜【キャリア型】	募集人員 20名
こんな人にオススメです ▶ 入学後のキャリア計画を設計できる方	

出願資格 (要件のいずれかに該当する者)

- ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。
- ②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達している者。

出願要件 (要件のすべてに該当する者)

- ①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
- ②将来のキャリア計画が明確であり、キャリア計画書を提出できる者。

選考方法

- **第一次選考** (書類審査) ※本人宛に結果を発送。

- ①キャリア計画書(学部指定用紙)
- ②出身高等学校等調査書

●第二次選考

- ①総合問題試験(読解と論述を含む)
- ②口頭試問及び面接(キャリア計画書についてのプレゼンテーションを含む)

試験日

- **第一次選考** 令和6年 9月30日(月)

- **第二次選考** 令和6年10月26日(土)

一般選抜

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
一般選抜A個別方式	85名	令和7年 2月4日(火)	3教科 3科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」	100
				地理歴史 公民 数学	「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
N全学統一方式(第1期)	15名	令和7年 2月1日(土)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

方式	募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
N 全学統一方式(第2期)	10 名	令和7年 3月4日(火)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、外国語の得点を1.5倍にして、他の科目と合わせて合否判定する。		

令和6年度 入試状況一覧

総合型選抜

学科	募集人員	志願者数	受験者数(A)	合格者数(B)	競争率(A/B)	競争率(令和5年度)
危機管理学科	25	72	72	53	1.4倍	1.6倍

一般選抜

方式	募集人員	志願者数	受験者数(A)	合格者数(B)	競争率(A/B)	競争率(令和5年度)	総点	合格者最低点 [※]	
								令和6年度	令和5年度
A個別方式	105	600	571	282	2.0倍	2.0倍	300	150.0	149.9
N全学統一方式(第1期)	15	463	446	181	2.5倍	3.2倍	200	107.6	113.9
N全学統一方式(第2期)	10	133	107	36	3.0倍	3.7倍	250	134.7	142.1
A+N1+N2 計	130	1,196	1,124	499	※小数点第2位以下切り捨て				

納入金

種別	項目	初年度納入金		
		入学手続時	後学期(9月)	計
学費	入学金 ^{※1} (初年度のみ)	260,000円	—	260,000円
	授業料	430,000円	430,000円	860,000円
	施設設備資金	100,000円	100,000円	200,000円
その他	日本大学三軒茶屋キャンパス後援会費	15,000円	15,000円	30,000円
	日本大学校友会準会員(在学生)年会費 ^{※2}	10,000円	—	10,000円
計		815,000円	545,000円	1,360,000円

※1 納入金に変更になる場合があります。必ず入試要項(募集要項)をご確認ください。 ※2 卒業年度後学期に正会員会費初年度分を10,000円納入。

危機管理学部 入試情報
https://www.nihon-u.ac.jp/risk_management/admissions/

日本大学 入試情報
https://www.nihon-u.ac.jp/admission_info/application/